

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 15	提案機関名 農業技術センター横浜川崎地区事務所
要望問題名 環境制御を活用した施設トマトの高糖度生産	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 2015 農林業センサス（販売目的で作付けした野菜類の作物別作付け農家数と作付け面積）によると、施設トマトの作付け面積は横浜市 1,338a、川崎市 354a で神奈川県 6,481a の 26% を占める。販売方法は、直売所など食味（特に糖度）を重視している生産者が多い。 農業技術センターでは、施設温度管理や摘葉と糖度の関係などの環境制御技術について研究されており、当地域の方向性と合うものです。今後の研究要望として、栽培期間中に糖度（Brix）5.5%以上を確保し、可販果収量を 10% 増とするような、環境制御技術の開発をしていただければ施設トマト農家の生産意欲向上につながると考えます。	
解決希望年限	① 1 年以内 ② 2～3 年以内 ③ 4～5 年以内 ④ 5～10 年以内
対応を希望する研究機関名	① 農業技術センター ② 畜産技術センター ③ 水産技術センター ④ 自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部 野菜作物研究課
対応区分	① 実施 ② 実施中 ③ 継続検討 ④ 実施済 ⑤ 調査指導対応 ⑥ 現地対応 ⑦ 実施不可		
試験研究課題名 IV-1(1) トマト栽培における効率的環境制御法の開発 ア 環境制御が生育収量に及ぼす影響調査			
対応の内容等 当課では、トマト栽培における環境制御技術の開発に関する試験研究の中で、収量増加に加えて品質向上につきましても重要な課題であると考えております。現在のところ、経営モデルとして収量 30t/10a、最低糖度 5% を目標として温室内気温や培地内 EC 等の環境条件、摘葉管理等の栽培管理法による収量増加及び品質向上技術の開発に取り組んでおります。御要望いただきました「糖度 5.5% 以上、可販果収量 10% 増」という値につきましては、現在取り組んでいる技術開発を発展させていく中で検討してまいります。			
解決予定年限	① 1 年以内 ② 2～3 年以内 ③ 4～5 年以内 ④ 5～10 年以内		
備考			